

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年4月23日（水）

2 確認箇所

既設多核種除去設備（図1）

3 確認項目

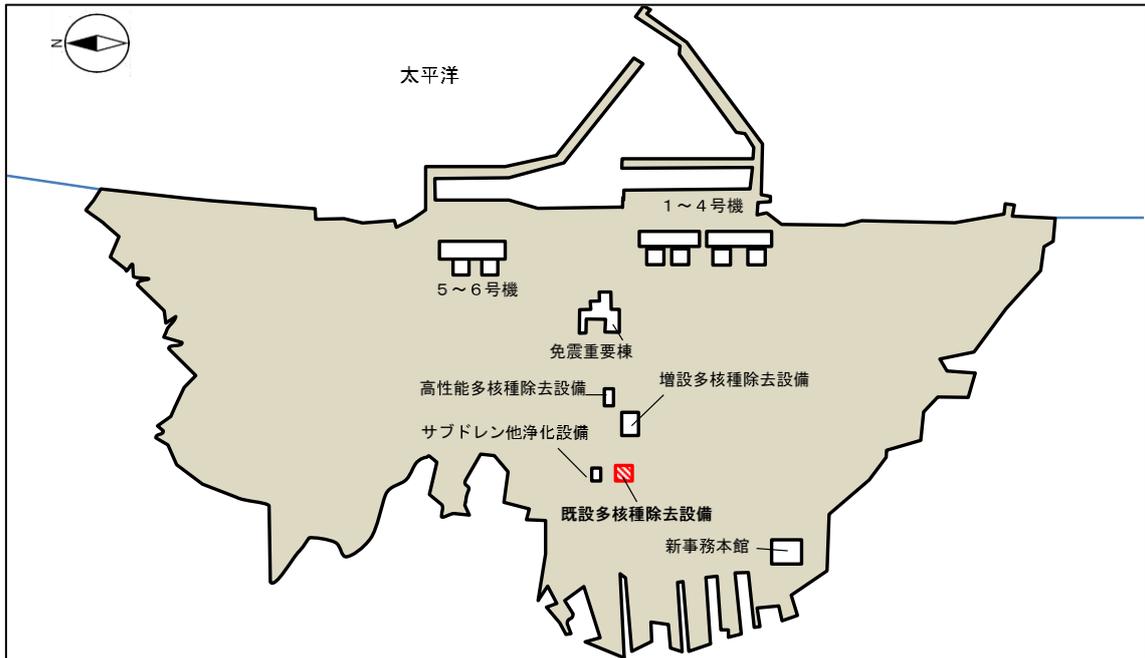
既設多核種除去設備の運転状況

4 確認結果の概要

福島第一原子力発電所では「増設多核種除去設備配管洗浄作業における身体汚染（令和5年10月）」や「高温焼却炉建屋からの放射性物質を含む水の漏えい（令和6年2月）」など、汚染水処理設備に関するトラブルが連続して発生している。そのため、汚染水処理設備の運転状況や設備機器のメンテナンス状況を継続して確認している。

本日は、既設多核種除去設備（以下「既設ALPS」という。）の運転状況及び設備機器の保守作業等について確認した。（前回確認日：令和7年4月21日）

- ・吸着塔（A系）上部が作業準備のため養生されていた。（写真1）
- ・薬液（炭酸ナトリウム）供給ポンプ及びライン（ともにA系）の保守作業が終了し、通水試験の準備が進められていた。（写真2）
- ・循環タンク（C系）では、構造体の欠損や剥離等の不具合を確認するため、超音波検査が行われていた。（写真3）
- ・調査時、既設ALPS（B系）が稼働していた。設備ラインの接続部にはペーパータオルが入ったポリエチレン袋がぶら下げられており、漏水時に視覚的に認識しやすい対策が講じられていた。（写真4）
- ・建屋内を確認した範囲では、配管や設備からの漏えい、水たまり等の異常は認められなかった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1) タンク上部の養生



(写真2①) 薬液ライン通水試験



(写真2②) 薬液供給ポンプ通水試験



(写真3) 超音波試験の状況



(写真4)漏水確認の対策

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。